

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年11月28日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・5歳児「秋の自然物を使った表現活動への発展」

<テーマ設定理由>

保育園が所在している近隣には団地の原っぱや霊園の自然環境、周辺の樹々など、豊かな自然があふれています。子ども達は季節の移ろいとともに変化する自然環境の不思議さ、美しさなどを見たり、触れたり、感じたりしています。小さい年齢からずっとこの環境で育ってきた子ども達は豊かな自然の中でどんな「秋」を発見するのか探究に出かけました。その時に見つけた自然物を使って「みんなの原っぱ」づくりをしました。

2. 活動スケジュール

季節の深まりとともに園周辺の環境が秋の装いに変化してきたことから、散歩に出掛ける計画を立てました。毎週のように出かけて自然に触れています。まず11月21日に出かけ、続いて11月26日に出かけました。11月28日に散歩で見つけた「秋」の自然物を使って制作活動を行いました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・原っぱや霊園、団地内の広場で見つけた自然物を分類して用意する。
- ・大型の厚紙（台紙として使う）
- ・ボンド・セロハンテープ・両面テープ・ガムテープ・水性ペン・はさみ・綿棒
- ・製作シート・手拭きタオル

4. 探究活動の実践

<活動内容>

・霊園に散歩に行き、秋の自然を見たり触れたりするためにまずは十分に自然に触れる活動を展開した上で、「秋ってなんだろう」という問いを基に子ども達は自然の中で空を探し落ちてくる枝、落ち葉、まつぼっくり、どんぐり、木の実などを拾ってきた。
 ・本日は集めた自然物を使って、自分がイメージする「原っぱ」づくりを行った。本園の園児にとっての「原っぱ」とは、とても身近な存在で、小さい年齢からずっと継続的に散歩で訪れ、特別な存在として位置づけられているので、自ら想像を膨らませて集めてきた素材をつかって自分たちの原っぱづくりを楽しむ姿が見られた。
 ・どうやって素材を生かして平面に貼っていくか、その並べ方、素材の使い道、イメージに近づけていくための試行錯誤を重ねながら楽しい活動に展開できた。本日休みの園児に対しては今後も継続的に取り組んでいきたい。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

素材を見つめて気づく場面

- ・「この枝ながーいね」「ここが道みたい」と、形や長さ、量などの違いに気づいて言葉にしている。
- ・どんぐりや葉っぱを手に取り、「つるつるしてる」「こっちはチクチクする」と感触の違いを友だちと確かめ合い、自然物の特徴を共有している。

イメージを伝え合う場面

- ・「ここは木のトンネルにしよう」「葉っぱをいっぱい置いたらベッドみたい」と、自分の原っぱのイメージを友だちに伝えながら配置を相談している。

- ・「こっちは川にしたい」「じゃあ橋をつくろうよ」と、一人の発想に別の子が乗り、イメージをつなげて共同で世界を広げている。

試行錯誤・悩みと工夫の場面

- ・「ここに置いたら見えなくなっちゃうかな」「もっとくっつけたら倒れないかも」と、置き方や貼り方を変えながら、どうしたらイメージに近づくか考えている。

- ・「落ちちゃった」「くっつかない」と困りながらも、テープの量を増やしたり向きを変えたりして、自分なりに解決策を試している。

友だちとのかかわりの場面

- ・「それ貸して」「いいよ、じゃあこっこの葉っぱと交換しよう」と、素材の貸し借りや交換を通して、やりとりのルールや折り合いのつけ方を学んでいる。

- ・「ここ一緒につくろう」「ここは〇〇ちゃんの場所ね」と、役割を分けたり相手のスペースを尊重したりしながら、共同制作の心地よい距離感を探っている。

- ・「ここ、ぼくが作った木なんだ」「ここから虫を探したよね」と、自分の経験と作品を重ねて友だちや大人に説明し、振り返りながら満足感や達成感を味わっている。

- ・全体を眺めて「本物の原っぱみたい」「ここで遊びたいね」と話し合い、自分たちの手で作り上げた世界を誇らしく感じている。



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・秋の自然物を使った「原っぱづくり」を通して、子どもたちが身近な自然に親しみながら、イメージを形にしていく力を確かに育てていることに気づいた。

- ・霊園での散歩を重ねることで、「秋ってなんだろう」という問いを自分なりに考えながら、落ちてくる枝や葉、木の実などを主体的に探し集める姿が見られた。

- ・「ただ拾う」のではなく、「原っぱづくりに使えそう」「これは〇〇みたい」と素材に意味づけしながら選ぶ姿から、自然物への興味関心や観察力、想像力が豊かになっていることを感じた。

- ・子どもたちにとって原っぱは、日頃から散歩で繰り返し訪れてきた特別な場所であり、それぞれの心の中に「自分の原っぱ像」がしっかり根づいていることがわかった。

- ・集めてきた自然物を前に、「ここはいつも虫を探すところ」「木の下で休憩したよね」など思い出を語り合いながら配置を考える姿から、経験をもとにイメージをふくらませ、自分なりの原っぱを表現しようとする意欲が育っていると感じた。

- ・大きな工作紙の上で、枝をどの向きに置くか、葉を重ねるか散らすか、どんぐりを並べるか散らすかなど、一つひとつ確かめながら手を動かす姿が印象的だった。

- ・友だち同士で「こっちの方が木っぽい」「道みたいにしよう」と話し合い、うまくいかないときには並べ替えや貼り直しを繰り返す姿から、イメージに近づけるために粘り強く試行錯誤する姿勢や、協同して一つの作品をつくり上げる力が育っていることに気づいた。

- ・本日はお休みの子もいたため、今後も自然物を手に取りながら原っぱづくりを続ける時間を保障し、一人ひとりが自分のペースでイメージを形にできるようにしていきたい。

- ・素材や経験を共有しながらも、それぞれの「原っぱ」のイメージを大切に受け止めていくことで、自然への愛着とともに、自分の思いを表現する楽しさと自信をさらに育てていきたいと感じている。